

# 7月27日の読売新聞に載りました!

2017年(平成29年)7月27日(木曜日) 読売新聞 糸川 4頁

## アサギマダラ 憩う街目指す



三田市志手原の市立上野台中の生徒が、春と秋に日本列島を縦断するチョウ「アサギマダラ」の写真を同中提供し、フジバカマの植栽に取り組んでいる。三田市をアサギマダラの中継地にしようという試みで、2015年に校内で植栽を開始。同年に飛来が確認されると、協力する小中学校も増え、活動の幅が広がっている。

### 三田・上野台中

## フジバカマ植栽の輪

上野台中でフジバカマの苗を植える生徒たち

アサギマダラは羽を広げた長さは約10センチで、あざのまだら模様が特徴。春から夏にかけて南西諸島から東北や北海道などに北上し、秋に南下する。特定の花の開花に合わせて移動し、約2000キロを飛んだ例もあるという。秋には「秋の七草」のフジバカマなどを好むとされる。

上野台中の生徒会は、2015年5月にフジバカマを植栽している京都府舞鶴市の市立城北中を訪問。約100本の苗を譲り受け、両校をつなぐ「虹プロジェクト」として校内2か所に植えると、秋に花を付け、早速、アサギマダラ数十匹が飛来した。

この成果を受け昨年、取り組みを広げ、市をアサギマダラが飛び交う街にしようという計画。挿し木でフジバ

カマの苗を増やしながらか、校区内の4小学校で、児童らと一緒に植えた。

今年は6、7月に、ニュータウン内のけやき台中とゆりのき台中、有馬富士共生センターで苗を植えた。さらに19日には、上野台中での栽培面積も拡大。生徒会メンバーら約10人が、花壇の空きスペースの雑草を取り除き、約10センチ伸びた苗約50本を等間隔に植えていった。秋にはひざ丈に成長し、開花するという。

活動に参加している3年の西嶋美咲さん(14)は「秋に街中をアサギマダラが飛び交うようになり、自然豊かな市のシンボルになってほしい」と夢を膨らまし、同年の上田幸歩さん(14)も「飛来するルートや生態を勉強し、飛来地の学校と交流を深めたい」と語った。